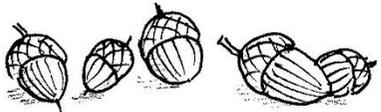


落ち葉物語

小さな森の奥深く 小さな子リスの兄弟が住んでいました。二匹は落ち葉で遊ぶのが大好き 飛んだり 跳ねたり 走ったり 秋の森で遊び回っています。ある日のこと いつもの様に森の中を遊び回ってお腹がすいた二匹は ドングリをお腹いっぱい食べて ひと休み 木もれ日の差す暖かな落ち葉の上で 寝転んでいるうちに 眠ってしまいました。



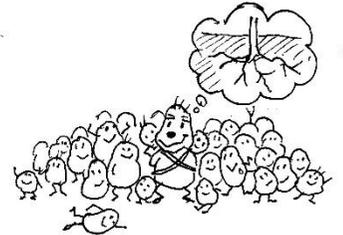
するとどうでしょう。二匹の体がドンドン ドンドン小さくなって 落ち葉の奥に落ちて行きました。真つ暗な中で 誰かの声が聞こえます。「モソモソ ウマウマ」 あつちからも、こつちからも 「モソモソウマウマ モソモソウマウマ」 二匹は少し怖くなって そつと目を開けると小さな虫たちが落ち葉を美味しそうに食べていました。

「君たちはいったい誰？」 二匹は勇気を出して声をかけてみました。すると大きなミミズが現れて言いました。「わたしたちは お食事中なの 落ち葉は私たちのごちそうなのよ じゃまをしないでね」と言いました。その声を聞いたとたん 二匹の体はもつともつと小さくなって どんどん深く沈んで行きました。



そこには見たことも無い 小さな生き物たちが「ワンサカ ワンサカ」ものすごい勢いで増えています。

二匹はまた勇気を出して 「君たちは誰？」と聞くと 「われわれは土の中に住む 微生物さ 落ち葉を粉々にしたり 虫たちのウンチを分解したりしているんだ」

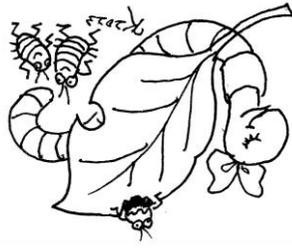


「分解して？」と聞くと 「もつとも小さくして 木や草花の 栄養を作っているんだよ そのかわり 木や草花の根っこから おいしいごちそうを 見合わせて「へーそうなんだ！僕たちもおいしいごちそう食べたいなあ」 二匹は顔を見合わせて「へーそう匹はもとの落ち葉の上で目がさめたとき。お・し・まい。 たち人間も大切な地球の仲間です。」

さて、いなかでしたか？ 落ち葉は小さな虫たちや ミミズたちのごちそうになって、さらに微生物と 言う目に見えない生き物達に細かく分解され、長い時間をかけて 木や草花の栄養になって行きます。また 微生物達は植物の根から栄養をもらい、助け合っているんです。

他にも、硬い土や粘土の様な土を7カ7カに変えてくれるので 植物達の根の成長を助けています。 動物、植物、落ち葉、虫、微生物、わたし

©2023 ロースターワーカーファースト
大島京子 作・絵



皆さんも、落ち葉をゴミだと思つて 捨ててしまわず、そこに書かれている 小さな小さな命の事も忘れずにして くださいな。